

# 人文学とデジタル人文学

## 教育をめぐる接点

永崎研宣 一般財団法人人文情報学研究所 主席研究員

# 自己紹介 – 現在の仕事の一部

- 一般財団法人人文情報学研究所 主席研究員
- 東京大学大学院人文社会系研究科 非常勤講師 (人文情報学)
- 同志社大学大学院総合政策研究科図書館情報学コース 非常勤講師 (デジタル・ヒューマニティーズ)
- 国立国語研究所共同研究員／国文学研究資料館歴史的典籍NW事業研究開発系共同研究班員／国立国会図書館研究員 (委嘱)／東京文化財研究所客員研究員／県立沖縄芸術大学附属研究所客員研究員
- 日本印度学仏教学会常務委員
- 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会運営委員
- 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会議長
- TEI Consortium, East Asian/Japanese SIG convener
- Alliance of Digital Humanities Organizations, Constituent Organization Board
- NCC (北米日本研究資料調整協議会), Comprehensive Digitization and Discoverability Program, member
- 日本学術振興会 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業 運営委員
- 日本学術会議 連携会員

# 自己紹介 – デジタル人文学への接続から現在まで

- 筑波大学大学院博士課程哲学・思想研究科入学(1995)
  - Webに出会う(1995)⇒Web頁作成公開・大学のサーバ管理を開始 (1996)
  - 情報倫理の構築プロジェクト(FINE)に参画(1997)
  - 宗教情報リサーチセンター設立に参画 (1998)
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所講師 (機関研究員) (2000)
  - 多言語Web文字表示システム「文字焼き」開発 (2000)
- 山口県立大学国際文化学部専任講師 (2001)
  - SAT大蔵経データベース開発に参加 (2005-)
- 一般財団法人人文情報学研究所設立に参画 (2009-)
  - 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会設立・国際DH連合加盟活動に参画 (2011-)
- 東京大学大学院にて人文情報学教育に参画(2011-)
  - 京都大学人文科学研究所共同研究班を運営 (2013-2015)
  - Text Encoding Initiative 理事・東アジア・日本語SIG設置 (2016)

# 自己紹介 – 最近の刊行物

- 京都大学人文科学研究所共同研究班編 永崎研宣著  
『日本の文化をデジタル世界に伝える』 樹村房, 2019年刊



- 下田正弘・永崎研宣編 『デジタル学術空間の作り方』 文学通信, 2019年刊

- オープンアクセス本：<https://bungaku-report.com/sat.html>





京都大学とのデジタル  
を通じたご縁

日本の大学図書館では  
最大級の  
デジタルアーカイブ

Library and Information Science

Home

## 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ、経典資料にSAT大蔵経DBへのリンク情報を記載

Posted 2018-09-11

2018年9月7日、京都大学図書館機構が、京都大学貴重資料デジタルアーカイブで公開している経典資料画像の書誌情報に、SAT大蔵経DBへのリンク情報を記載しました。2018年9月7日現在では、119件の書誌にリンク情報が記載されています。

- 児玉聡先生（倫理学）にデジタル人文学の著名な研究者の講演を和訳していただいた

京大文学部におけるデジタルを通じたご縁

DH2010 Plenary: Present, Not Voting: Digital Humanities in the Panopticon

DH2010総会：出席、ただし投票せず——パノプティコンの中のデジタル・ヒューマニティーズ

この文章は、キングズ・カレッジ・ロンドンで2010年8月に行われるデジタル・ヒューマニティーズ2010(以下、DH2010)の総会の開めくりのスピーチで話す予定の——あるいは、こういうことを言えればと考えている——内容に近いものである。だが、わたしは出来上がった原稿を読むタイプではないので、実際のスピーチでは脱線やアドリブがあるものと考えてよい。このように文章として書いておくのは、参加できない研究者や、ワールドカップのセミファイナルを見るためにパブの座席を確保するのに忙しい人々のためである。

[https://www.dhii.jp/dh/dh2010/DH2010\\_Plenary\\_trans\\_by\\_kodama.html](https://www.dhii.jp/dh/dh2010/DH2010_Plenary_trans_by_kodama.html)

# 90年代からの…

京大文学部におけるデジタルを通じたご縁

- 情報倫理の構築プロジェクト（再掲）



- <https://philosophy.dhii.jp/links/form.cgi?field=%C1%B4%C9%F4&sort=%B8%A6%B5%E6%B5%A1%B4%D8>
  - 研究科長・宇佐美先生もかつてはWebサイトを…

# 京都大学への大きな期待

- 外野の安易な発想で恐縮ですが…
- 各組織のデジタル資産と理解の深い先生方が連携できるような枠組みを作ることができれば素晴らしい教育体制ができるのではないか。

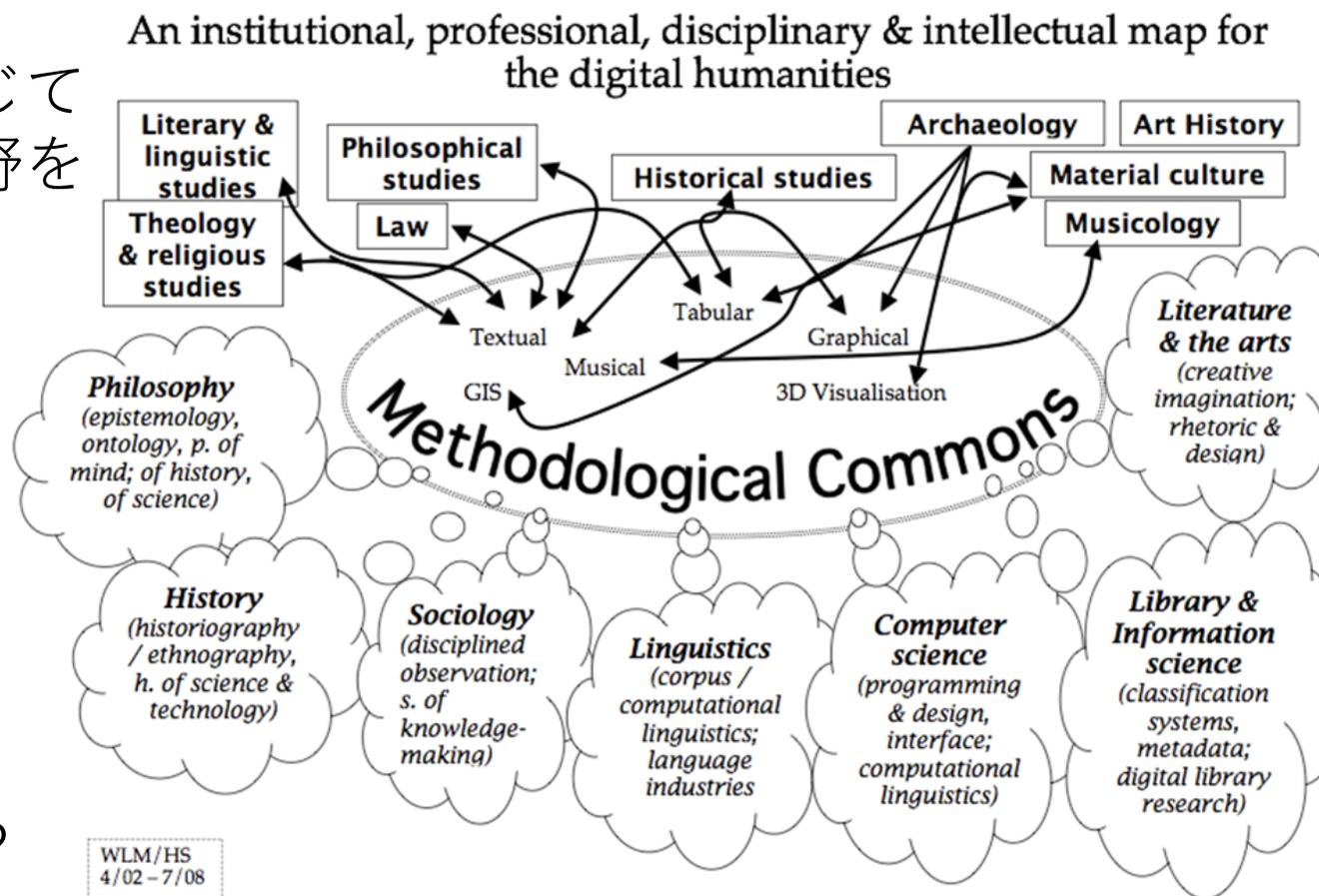


# デジタル人文学とは

デジタル方法論を通じて  
人文学における各分野を  
つなぐ架け橋たるDH

「方法論の共有地」

紙媒体の時代には…?

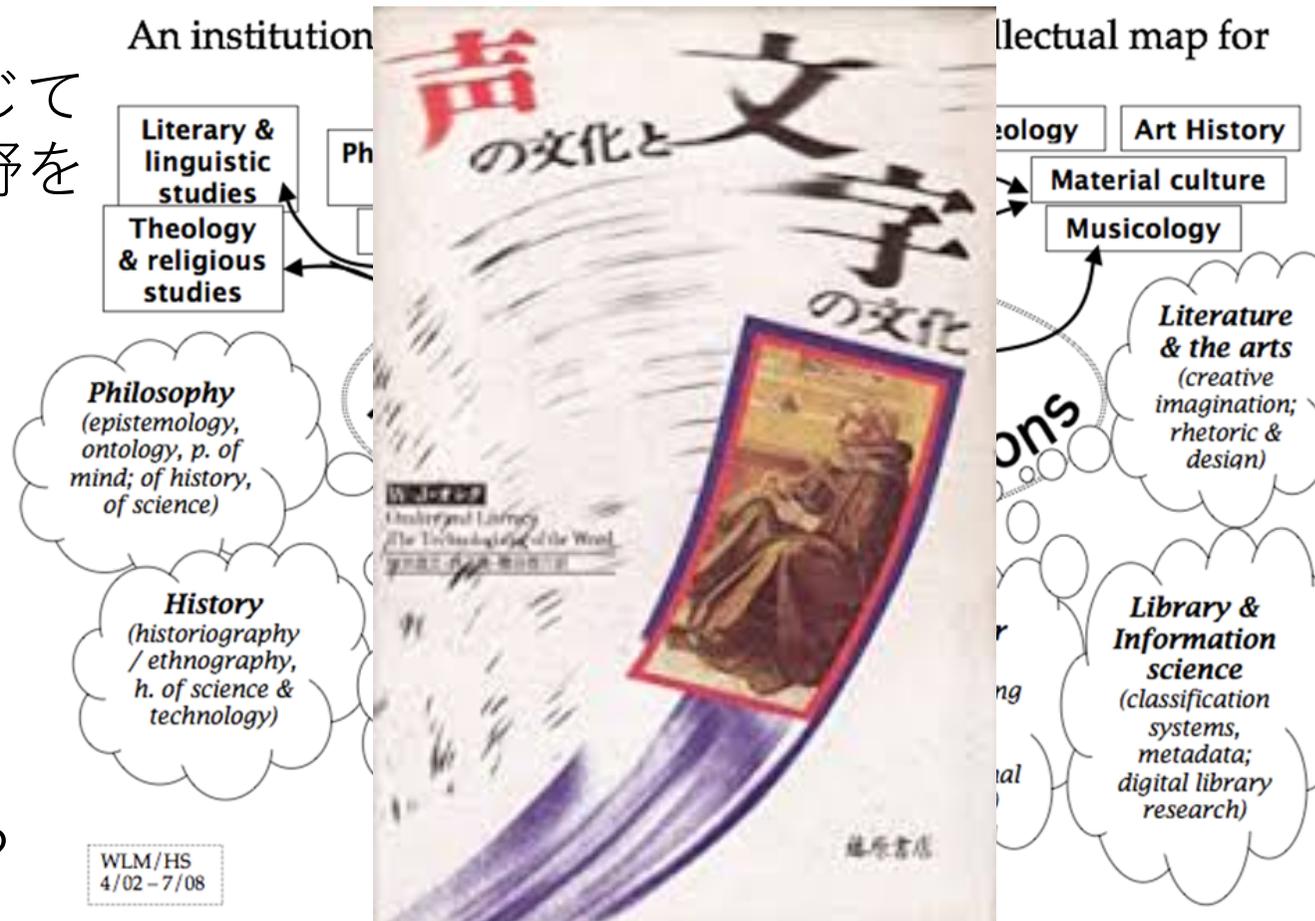


# デジタル人文学とは

デジタル方法論を通じて  
人文学における各分野を  
つなぐ架け橋たるDH

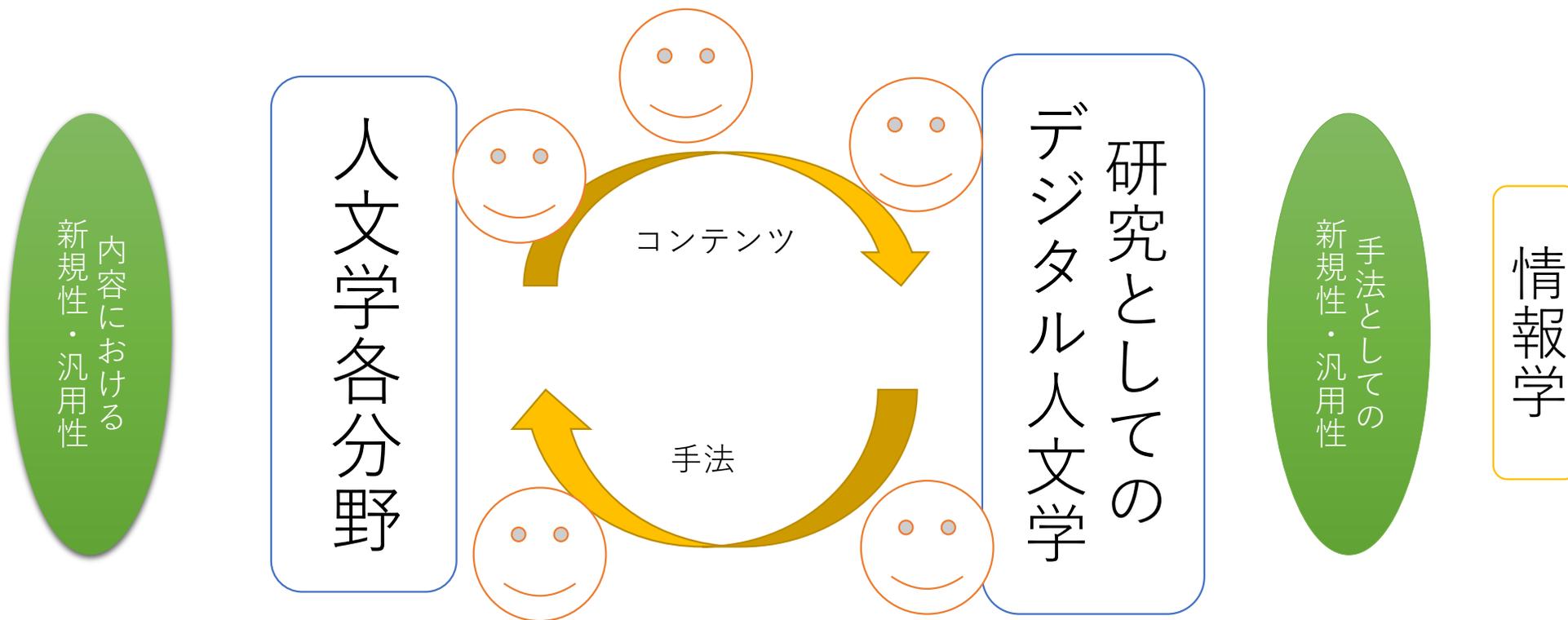
「方法論の共有地」

紙媒体の時代には…?



# デジタル人文学と人文学：

研究者・研究発表の多様な位置取り



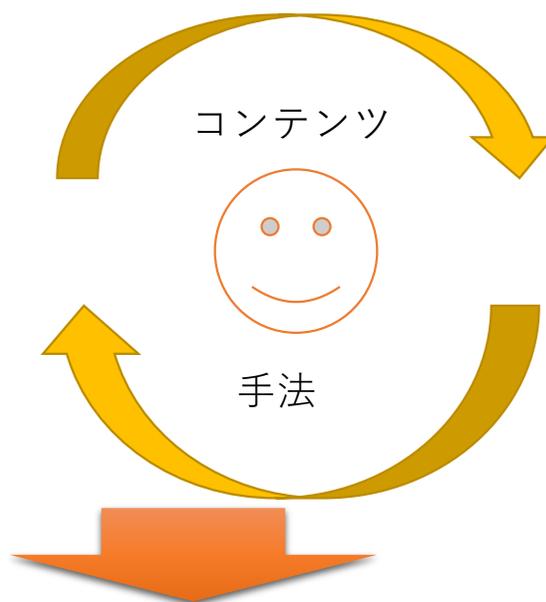


# デジタル人文学と人文学：

人文学における情報リテラシーの位置づけ

内容における  
新規性・汎用性

人文学各分野



研究としての  
デジタル人文学

手法としての  
新規性・汎用性

情報学

人文学における情報リテラシー

# デジタル人文学の「成果」とは

- 「方法論への共有地」への貢献に関するあらゆる事柄
- 分析結果、分析手法、それを実現する構築手法、教育手法、共有手法、それらに基づく実践…



- 研究者としての「人事評価」にどう反映されるか？という課題
  - アメリカ歴史学協会によるガイドライン
    - <https://www.jadh.org/guidelines-for-the-evaluation-of-digital-scholarship-in-history>
  - 米国現代語学文学協会（MLA）
    - <https://www.mla.org/About-Us/Governance/Committees/Committee-Listings/Professional-Issues/Committee-on-Information-Technology/Guidelines-for-Evaluating-Work-in-Digital-Humanities-and-Digital-Media>

# デジタル人文学教育の現状

「人文学のための情報リテラシー」と「研究としてのデジタル人文学」の  
相互乗り入れとして

# 授業（人文社会系研究科）

- 人文情報学概論Ⅰ・Ⅱ
  - 後述
- 人文情報学研究Ⅰ・Ⅱ
  - 後述
- デジタル・ヒューマニティーズ入門
  - オムニバス形式（1名あたり1回）
  - 他部局の教員を含む（教育学部・工学部など）
- 人文情報学の諸相
  - オムニバス形式（1名あたり4回・隔年）
  - 人文情報学部門の教員による

# 「人文情報学概論I（前期）・II（後期）」

- 前期
  - 履修者30～50名程度
  - 講義と実習
  - 人文学におけるデジタル技術の活用に関する一般的な事項
    - 詳細は次スライド
  - 人文学研究における情報リテラシーの習得を志向
  - 情報技術とDH研究のトレンドにあわせて内容を毎年更新。
- 後期
  - 履修者5～10名程度
  - 実習中心
  - 翌年度5月の情報処理学会「人文科学とコンピュータ研究会」学生セッションでのポスター発表を一つの目標
    - DHもある程度できる人文学研究者の養成を志向
    - 人文学資料をあつかえる情報系・理系研究者の養成も志向

# 人文情報学概論I

シラバスより：（講師は下田正弘・大向一輝・永崎研宣）

+TA・RA・既履修生の熟練サポーター3名

1. オンライン授業・DH横断プログラムとしての**各種ガイダンスと授業全体の紹介**
2. 人文学とメディア - **人文学におけるデジタル研究手法の位置づけ**／Methodological Commons
3. デジタル媒体と人文学の歴史 - **人文学を含む学術情報流通におけるメディアの変遷とDHに至る人文学の対応**／
  - i. <https://prezi.com/jowmoeq8sfjk/dh/>
4. 利便性の高さの背景 - **学術情報流通の全体像**／メタデータ・Linked Data・「オープン…と被オープン」 欧米DHの事例
5. 利便性の高さの背景 - **学術情報流通とDH**／Identifierについて・学術情報流通とWebコラボレーションの事例としてのZoteroの実習
6. 紙媒体における文献学的蓄積の詳細なデジタル化手法（1） - **テキスト分析の手法と課題の概説**／Voyant tools・KH Coderで実習
7. 紙媒体における文献学的蓄積の詳細なデジタル化手法（2） - **人文学向けのテキスト構造化概説**／TEI概論
8. 利便性の高いツールのための効果的なデジタル化手法（1） - **人文学向けのテキスト構造化実習**／Oxygen XML Editorで実習
9. テクスト以外のデジタル化資料への批判的分析 - **画像・音声・動画のデータモデルと分析**／メディア芸術DB・IIIF
10. デジタル化資料を提供する側の論理と仕組み - **大規模プロジェクトの構築運用**／SAT大蔵経DB、CiNiiの事例より
11. 協働で構築されるデジタル化資料 - **プロジェクトとしてDHに関わるには**／研究マネジメント、研究発表の場とそれぞれの性格

# 紹介した手法・ツール

- 書誌情報のデジタル化・効率的な操作とWebを通じたコラボレーション
  - Zotero
- テキスト分析
  - Voyant tools, KHCoder
- テキスト構造化 (主にText Encoding Initiative ガイドライン)
  - Oxygen XML Editor, Versioning Machine, Critical Apparatus Toolbox,
- RDF/Linked Data
  - RDFグラフの視覚化@Web Kanzaki
- Web画像運用
  - IIIF関連- Mirador, Omeka
- GIS
  - 概要のみ
- 時間情報
  - HuTime

これら以外にも様々なWebサイト・書籍等に言及

<授業で使える>手法・ツール・データに関しては継続的に調査を実施し、新しい要素を毎年取り込んでいる

# 紹介した手法・ツール

- 書誌情報のデジタル化・効率的な操作とWebを通じたコラボレーション
  - Zotero
- テキスト分析
  - Voyant tools, KHCoder
- テキスト構造化 (主にText Encoding Initiative ガイドライン)
  - Oxygen XML Editor, Versioning Machine, Critical Apparatus Toolbox,
- RDF/Linked Data
  - RDFグラフの視覚化@Web Kanzaki
- Web画像運用
  - IIIF関連- Mirador, Omeka
- GIS
  - 概要のみ
- 時間情報
  - HuTime

これら以外にも様々なWebサイト・書籍等に言及

<授業で使える>手法・ツール・データに関しては継続的に調査を実施し、新しい要素を毎年取り込んでいる



しかし、まだまだ  
不十分です

# 伝えようとした要素

- デジタル媒体・情報をどのように理解するか・どう活用するか
  - データリテラシー・データクリティクス
    - (文字・テキスト・各種メディアの符号化)
  - デジタル的に正しいとはどういうことか・可能性と限界
  - データの具体的な活用手法
- デジタル成果物をどのように構築すべきか
  - 人文学を今後展開させていくためにはどう構築するのがよいか
    - 利活用を考慮したデータ構造に関すること
    - データの利用条件に関すること
- 今後の人文学におけるデジタルを通じた情報共有（≒協働）のあり方

# 人文情報学概論II

- 現在進行中：
- 受講生各自の関心についての自己紹介とディスカッション
- 「Omekaを通じて人文情報学を考える」
  - Omekaとはどういうものか
  - Omekaを事例とした「オープン」な北米のDHの解説
  - IIFによるWebコラボレーションとアノテーションの解説と実習
  - 時空間情報／Historical GIS
  - アノテーションとテキスト情報
- ネットワーク分析入門：Cytoscapeを用いて
- 「チームの中断期間に個人面談」 ← 現在はここ
  - 受講生達の関心におおまかにあわせた展開
    - イタリア語テキストの人名抽出をGoogle Colab/spacyで実習
    - Unicodeにおける文字の符号化についての実習込みの講義

# 人文情報学研究I・II

- 主にテキストデータの構造化に特化した内容
- Text Encoding Initiativeガイドラインに基づくテキスト構造化についての議論と実習
  - ここから派生する人文学におけるデジタル技術の諸課題について扱う
- RDF/Linked Dataについての議論と実習
  - デジタル情報流通全般を見据えた広い視野から人文学情報の位置づけを考える

# 既履修生によるDHの研究活動

[https://dh.l.u-tokyo.ac.jp/activity#h.p\\_7tsvRi0zjRij](https://dh.l.u-tokyo.ac.jp/activity#h.p_7tsvRi0zjRij)

- 人文科学とコンピュータ研究会 学生セッション発表 延べ19件
- 研究グループ・東京デジタルヒストリーの設立と活動
- 欧州中世資料デジタル学術編集集合宿への参加
- 国内外のDH系学会・研究会での発表
- …

⇒履修後の個別フォローアップ

⇒2020年より大向先生の主導によりUTDH勉強会

# 京都大学への大きな期待（再掲）

- 外野の安易な発想で恐縮ですが…
- 各組織のデジタル資産と理解の深い先生方が連携できるような枠組みを作ることができれば素晴らしい教育体制ができるのではないか。

